

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502355		
法人名	有限会社 ネイチャー		
事業所名	グループホームなつれ		
所在地	札幌市豊平区福住2条10丁目14-1 (電話) 011-855-5738		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年3月8日

【情報提供票より】 (20年 2月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	11月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	7 人	常勤	6人,	非常勤 1人, 常勤換算 4.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000～38,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費16,000円 暖房費10,000円(11-3月)	
敷金	(有) (30,000～38,000円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (2月 10日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1	要介護2	2		
要介護3	3	要介護4	1		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 86.4歳	最低	75歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まこまない共生クリニック、展望台整形外科、高台病院、クボタ泌尿器科クリニック、星川歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表は、かつて看護師職を務めるなかで、生活に困窮している高齢者の行く末に心を痛め、手を差し延べたいとの思いから当ホーム、「なつれ」を設立した。場所は幹線道路に程近く、近くにコンビニ、スーパーがあって買い物や交通の便がよく、しかもすぐそばの公園と少し離れた「羊が丘」の自然にも恵まれた、閑静な住宅地に位置する。大きな民家を改造した建物で、家庭的な雰囲気に満ちている。食堂と一体になった居間は全員分のソファがあって広々としており、利用者はゆっくりくつろいでいる。職員は管理者も含めて全員女性であるが、穏やかで、優しく利用者に接している。利用者家族の職員に対する評価も高い。地域との交流にも積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、契約書への利用者権利の掲載、遊具類の置き場所、介助過剰、苦情受付の第三者機関明示の必要を指摘されたが、いずれも真摯に受け止めて誠実に対応し、指摘された点はすべて改善を済ませている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価用紙を全職員にコピーして配布し、案作成を求めた上で、管理者が各自と打ち合わせしながら全体をまとめあげた。全職員が十分消化し切れたとは言えない部分もあったが、改善への気付きの機会になり、理念の見直しへのきっかけになるなど、前向きに取り組まれている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、定例で開かれ、施設側のほかに町内会長、民生委員、地域包括センター担当、利用者、利用者家族を参加メンバーとして、ホームの趣旨や運営状況の報告、地域包括支援センターからの状況説明、家族からの要望意見などについて話し合われている。評価についても議題に取り上げられている。災害時の協力関係についても話し合わせ、町内会から避難施設の紹介などもあった。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの指摘はありがたい、思っていて言ってもらえないのがむしろ怖い、との思いから、積極的に意見や要望を聞きだすよう、努力している。運営推進会議の後の時間を家族会議として、忌憚のない意見を求め、議事録に留めている。ここで出された意見や、日ごろの意見、要望は文書にまとめて対処や改善対策を講じるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して活動に参加している。盆踊り、ひな祭りなどの行事に参加するほか、クラブ活動に参加している利用者もいる。町内会には唄やハンドベルなどのボランティアグループがあって、来訪を受けている。また、ホームでは時折「おやつ会」と称するパーティーを開いて近隣の住民を招いており、親子連れの参加者などがホームをにぎわせている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	福祉の基本的なあり方に関する理念を掲げているが、グループホームという、特定の事業に具体化されたものとはなっていない。	○	グループホームとしての家庭的な雰囲気、利用者本位のケア、地域とのつながりなどを含んだ、独自の理念を、職員が中心になって作成予定、とのことなので、その実現を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念は額に入れて玄関および居間に掲げられている。基本理念のほかに、笑顔を大切に、などの簡単な標語があつて、同じように居間に掲げられているが、これには職員がよく馴染んで、ケアの指針としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して活動に参加している。盆踊り、ひな祭りなどの行事に参加するほか、クラブ活動に参加している利用者もいる。また、ホームでは時折「おやつ会」と称するパーティーを開いて近隣の住民を招いており、親子連れの参加者などがホームをにぎわせている。	○	町内会のクラブ活動には現在、マージャンの参加だけなので、もっと多くの利用者がいろいろなクラブに参加するようにしたい、との意向なので、その努力に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価用紙を全職員にコピーして配布し、案作成を求めた上で、管理者が各自と打ち合わせしながら全体をまとめあげた。いくつかの点で、改善への気付きの機会になり、理念の見直しへのきっかけになるなど、前向きに取り組まれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定例で開かれ、ホームの趣旨や運営状況の報告、地域包括支援センターからの状況説明、家族からの要望意見、評価、災害対策などについて話し合われている。そこで出された意見や提案、情報は運営の改善に役立てられている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との必要な要件はたいがい電話で済ませており、区的生活保護担当者が必要に応じて来訪するくらいで、実際の行き来はあまりない。	○	これまで、行政との連携はあまり意識していなかったようなので、今後どのような連携をするかの検討も含めて、市あるいは区との連携に積極的に取り組むよう、検討を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「なつれ通信」を毎月発行し、ホーム全体の様子と、個人別の様子とを併せて知らせている。家族が来訪したときは必ず状況報告をし、話し合いの時間をとっている。また、ちょっとした様子の変化も逐一電話で連絡するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの指摘は貴重、との思いから、積極的に意見や要望を聞きだすよう、努力している。運営推進会議の後の時間を家族会議として、忌憚のない意見を求めている。意見や要望は文書にまとめて対処や改善対策を講じるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一法人一事業所なので退職以外の異動はない。異動の際は、家族には知らせているが、利用者には、本人の理解度に応じて工夫して説明している。馴染みの職員の離職が利用者にはダメージを与える危険を十分に理解し、話し方やタイミングに配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時の1ヶ月間に2回の講習をし、さらに管理者が実技指導をしている。その後の教育は計画的に行われており、2ヶ月に1回ぐらいの外部研修を職員交代で受講し、他に毎月内部研修を行っている。外部研修はグループホーム協議会主催のものが主で、時に市主催の研修にも派遣している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊平区のグループホーム協議会で同業者と交流しているが、夜の開催であるため、一般職員は参加が難しく、管理者主体になっている。会では懇親、勉強会、情報交換などを行っている。そのほかにいくつかの同業施設と管理者レベルの個別の交流があって、互いに学びあっている。	○	現在のところ管理者レベルの交流に止まっているが、今後は一般職員も参加できるようにしたい、との意向なので、その実現を期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当ホームは困窮した、身寄りのない高齢者を重点的に受け入れているので、切羽つまって即入居、というケースも少なくないが、そうでない場合は、事前に1回以上は遊びに来てもらうなどして馴染んでもらってから入居としている。入居当初は疎外感を抱かないよう、職員がそばについて声掛けをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の能力や意向に応じて、食事の準備、後片付け、雑巾がけ、居室の掃除などができるだけ職員が声をかけながら一緒にやっている。テレビを見ながらの会話、昔話、子育ての経験の話などで職員も交えて共感あっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とよく話をする、注意深く観察する、日ごろの生活ぶりや若い時の生活ぶりについての情報を重ねあわせる、などのことを手がかりに、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。不適切な言動も表面的に解釈せず、本当の気持を読み取るよう、注意している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者が情報収集した内容をケアマネージャが家族、利用者の意向も取り入れ、さらに、ケアカンファレンスでの情報も参考にして介護計画を作成している。作成した内容を管理者との確認後、家族に提示し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直している。申し送り後のミーティングで本人の心身の状態やケア目標について話し合い、介護記録なども参考にして情報を共有している。また、状態が改善した時も含め、変化時には1ヶ月以内に新たな計画をつくり、家族にも報告している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの車が空いている時には、買い物や図書館に行くなど、したい事に配慮している。入院して医療処置を受けたいなどの本人・家族の希望がある場合には、その意向に沿って対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医、歯科医の往診体制になっている。協力病院以外の眼科、耳鼻科、精神科などの受診には、基本的には家族が同行しているが、可能な限り、職員も一緒に行き、情報交換などで連携を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、終末の過ごし方についての考えを家族から聞いている。看取りは可能であるが、痛みがある時には入院し医療処置で苦痛を和らげて欲しいとの家族の思いもある。利用者の重度化する状態を見ながら、方針については家族、主治医と常に話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	聞いていて、きつく聞こえる職員の命令的な口調には注意し、ミーティングや情報交換の中で、言葉遣いや対応について確認している。記録等は席を立つ時には片付けるようにして個人情報の取扱いに注意している。	○	玄関に来訪時の記入ノートを置いているがプライバシーの観点で問題にならないか、家族会で聞いてみたいとのことなので面会簿の工夫に期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、体操後に職員は1日の行事や流れを話し利用者の希望など、一言を聞くように関わっている。全員の望みを叶えるのは難しいが、次に実行するという約束ごとを大切にしている。テレビを観たり会話でくつろぐなど、個人のしたいことを軸に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備で場面を作り、手伝いが可能な人の力を引き出している。食器並べ、盛り付けなどをお願いし、参加への満足感を得られるように必ず労いの言葉をかけている。職員も一緒に食べ、自力で食べる残存能力を見守り、食事介助はゆっくりと、その人のペースに合わせて対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月～土曜日の週6回、14時から17時までの体制になっている。利用者の希望に合わせて支援しているが、個人の希望時間がそれなりに決まっており、週2回以上は入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ることをお願いし、役立っていることを実感してもらうように関わっている。調査日にも来訪された他の家族の接待に、お茶を運び会話をしている様子は、利用者の普段の暮らしぶりを思わせる。職員による本の読み聞かせや一緒に唄うことも楽しみになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は日常的に行なっている。近くのコンビニエンスストアでの買物や公園で散歩したり、図書館に出かけたりしている。夏はホームの庭に植えてあるさくらんぼの収穫を楽しみ、冬はホームの車で職員と一緒に大型スーパーで買物も楽しんでいる。	○	お盆の墓参りや、タクシーに乗り一人で出かけるなどの可能性をさぐっているということなので、個人の望みを叶える積極的な取り組みに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に 出る様子や音に注意し、職員が目配りや連携で、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルがあり、年に数回の自主訓練を行っており、利用者も参加している。向かいの高齢者住宅とは、相互の避難場所として決めている。夜間を想定した訓練を職員間で話し合っているが、今後、運営推進会議で住民の協力についても聞く予定でいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は、個人記録に記入し、状態を把握している。献立は食べたいものをさりげなく利用者から聞き出し、その日に料理を決めている。管理者は栄養バランスをチェックしているが、家族との連携で保健センターの管理栄養士から献立表のチェックを受ける機会もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は住宅を改造したもので、対面キッチンの前に食卓テーブルを置き、居間はテレビに沿って、ソファを広くとっており、遊びや談話など憩いの場になっている。利用者は2階への階段昇降機を器用に操作し、居間と居室を自由に往来している。壁には手作りの暦や季節の飾りが貼ってあり、家庭的な雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、1, 2階にあり、改造のため、形や広さにも、若干の違いがある。それらを活かし、馴染みの物を個性的に配置して上手に活用している。好みの置物や家族の写真等、本人が過ごしやすい居室づくりになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。